

第6回 英語教育実践研究会

2022年10月9日(日)10:00~16:00 オンライン開催

9:50 Zoom入室開始

10:00 開会の挨拶

10:05 ~ 11:35 講演

講演者 小澤伊久美氏(国際基督教大学 課程上級准教授)

演題 「大学教育における遠隔授業の現状と課題—言語教師の視点から—」

要旨 遠隔授業とは、互いに離れた場所にある学校、教師、学生などが、映像や音声などのやり取りを行うシステムを利用して互いにつながった形で行われる授業を指します。コロナ禍で対面授業が制限されたことから遠隔授業に注目が高まりました。

遠隔授業への緊急かつ急速な移行は言語教育にも大きな影響を与えました。例えば、カリキュラム設計、目標や評価、教材、各種ツールや機器、組織内外での教師の学び合いなど、授業実践の様々な側面において、語学の授業の在り方が問い直されたと思います。また、入国制限とオンライン留学、学生交流の制限、Black Lives MatterやAsian Hateなどの社会問題の発生、あるいはコロナ蔓延を原因とした経済的困窮など、語学の授業を取り巻く環境が、授業運営や学生対応にいかに密接に関わっているかを多くの方が実感されたことでしょうか。そして私たちは今、ポストコロナを見据えて、これらの経験から何を学び、それをどのように生かすか模索する時期に入っていると言えます。

そこで、この講演では、まず、大学教育における遠隔授業について、コロナ禍でどのような状況にあったかを言語教師の視点から(特に日本語教師としての経験から)お話したいと思います。後半は、ポストコロナの言語教育の可能性と、その際にどのようなことが課題となり得るかを参加者のみなさまと考えたいと思います。

11:35 ~ 13:00 休憩

13:00 ~ 13:55 事例発表 ①

発表者 須永豊氏(日本大学)

題目 「洋楽を用いた英語授業：問題点とその解決」

要旨 英語の授業で洋楽の歌詞を教材や例文として用いた経験がある方も多いと思われる。実際、洋楽を題材とする教科書や書籍は数多く出版されている。拙著『歌って英文法』(幻冬舎2021)もその一つであるが、その主な特色は、初習レベルの学習者が学ぶべき「基礎の基礎」から、英語を読み・書き・聴き・話すための比較的高度な実践・練習問題までを扱っていること、そして、文法事項を説明する例文のほぼすべてが22曲の歌詞から引用されていることである。本発表では、『歌って英文法』を教科書とする授業で教員が向き合う問題点とその解決を考え、前期末に行った授業アンケートの結果とともに報告する。

ワークシートの空欄を少しずつ埋めていくことが本授業の主な活動であり、学習者同士が助け合って楽しむグループワークが極めて重要となる。授業は「予習」、授業後の発音練習が本当の「授業」、教科書は復習用、と位置づけることで、音源を繰り返し聴き、話し合って答えを完成する過程を楽しめるよう工夫している。また、歌は特有のメロディーやリズムを伴うため、教員が同じ表現を朗読調で発音するなどし、歌詞も「日常会話」であることに気づかせ、現実に活かすよう促している。曲調や内容のバラエティーと、基礎から発展までをカバーしていることが多様な学生のニーズに応えるのに役立ち、歌を使った授業を楽しんでいる学生が少なくないようである。

14:00 ~ 14:55 事例発表 ②

発表者 平田亜紀 氏 (常磐大学)

題目 「看護の中の日常英会話と異文化理解教育に関する考察

— 『伝える私』から『対話をする私たち』への内省を促す試みから」

要旨 「今日は発音が上手にできなかった」から「相手から聞き出さなきゃいけない情報を英語でわかりやすく質問するのが難しく、スムーズな対話ができなかった。」という一方向性から双方向性のコミュニケーションの振り返りが学生からでてくるようになるまでの軌跡を報告する。

報告者は全学の1~4年生 (CEFR A1 後半~) 向けの選択授業と、看護学部1年生向けの必修授業 (A2 半ば) の2つを担当。前者は2020年度から、医療者を目指さない学生に日本語を母語としない人が暮らすうえで直面する病院受診の場面を通して患者側から看護英語の「さわり」を学習させた。後者は2022年度から、高校までの基礎的な文法力の強化を到達目標とする全学共通シラバスの制約があるなかで、受講者とのミスマッチの「緩衝材」として看護の場面で応用の効く日常英会話と ESP の「さわり」を紹介し、語学教育への関心維持を試みた。

病院内での日常会話の修得という例文集の学習にとどまらず、多文化共生社会に生きる市民として、あるいは、サービスを提供するエッセンシャルワーカーとして、他者理解のツールとしての英語について考えてもらいたいというコミュニケーション学者としての願いから行われた実践の日々についてここでは共有したい。

14:55 ~ 15:15 休憩

15:15 ~ 16:00 情報交換会

16:00 閉会の挨拶
